

#### 4 萩城下町 城跡

藩主の居館や藩政の中心機関があった本丸や二の丸があった地区で、この一帯は国の史跡に指定されています。



指月山の麓に、1604年(慶長9)毛利輝元が築城して以来260年間、毛利氏歴代13代が居城としました。1874(明治7)年、全国に先駆けて、萩(長州)藩のシンボルであった萩城を解体し、石垣を残すだけとなった城跡は、萩(長州)藩における近代化のストーリーの終焉と言えます。本丸は現在、指月公園として整備されており、春には600本余りのソメイヨシノが咲き誇ります。

◆萩市大字堀内1ほか 観覧料大人210円 P有り(普通300円、大型1,000円)

#### 4 萩城下町 旧上級武家地

萩城と外堀の間で、毛利一門をはじめとする藩の重臣達の侍屋敷が建ち並んでいた地区です。この一帯は旧三の丸にあたり、「堀内地区」とも呼ばれ、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。城下町の侍屋敷としての地割をよく残しており、土塀越しにみえる夏みかんとともに当時の風情をよく伝えています。



この地区の南西には、上級武士の屋敷であった口羽家住宅(国の重要文化財)や道を鍵の手に曲げて迷路のようにして敵を追い詰める「鍵曲」があります。口羽家住宅には土塀となまこ壁のコントラストが美しい雄大な表門があり、庭から眺める河畔の景色は絶景です。

◆口羽家住宅観覧料100円

#### 4 萩城下町 旧町人地

萩城外堀の外側にあり、町屋や中・下級の武家屋敷が軒を連ねていた地区です。この一帯は「萩城下町」として国の史跡に指定されています。



町筋は春盤目状になっており、菊屋横町、伊勢屋横町、江戸屋横町という小路があり、明治維新の3傑と呼ばれた木戸孝允の旧宅、豪商菊屋家の住宅などの建物や、なまこ壁の土蔵、門、土塀が連なり、当時の城下町の景観を今に残しています。

◆菊屋家住宅観覧料500円 旧宅等観覧料各100円 P有り(普通300円、大型1,000円)

#### 5 松下村塾

萩藩の兵学者吉田松陰が主宰した私塾です。木造瓦葺き平屋建て50mの小さな建物で、8畳の講義室と10畳半のひかえの間があります。



萩が生んだ幕末の志士吉田松陰は、萩(長州)藩が明治維新を推進した原動力となった人材を育てた人物です。ペリーが再来航した1854(安政元)年、松陰は25歳のときに伊豆下田でアメリカ艦船に乗り込み海外渡航を試みましたが失敗に終わり投獄され、のちに許されて実家(国史跡 吉田松陰幽囚ノ旧宅)に謹慎となりました。謹慎していた1856(安政3)年から門人への指導を開始し、1857(安政4)年に現存する塾舎に移りました。1858(安政5)年に閉鎖されるまでの約2年10か月の間に約90名の門人に教えました。塾生からは倒幕の指導的役割を果たした高杉晋作や、明治政府の初代内閣総理大臣となった伊藤博文などを輩出しました。そのほか、日本の近代化、工業化の過程で重要な役割を担った多くの逸材がここで学びました。

◆萩市大字椿東1537-1 市内中心部から北東へ約1.5km P有り(普通無料、大型1回500円)

#### 関連資産

##### 6 萩博物館

旧上級武家地にあり、外観もなまこ壁やいふし銀色の瓦が相まって気品と美しさに溢れています。産業遺産に関わるものや歴史、民俗、自然など萩に関わるものが幅広く展示しており、萩のことを知るにはここが一番です。

◆萩市大字堀内355 入館料大人500円 P有り(普通300円、大型1,000円)

##### 7 郡司鑄造所遺構広場

郡司家は萩(長州)藩お抱えの鑄師で、鍋、鋳、梵鐘のほか大砲などの兵器の鑄造を営んでいました。1853(嘉永6)年のペリー来航をきっかけとして幕府が公布した「洋式砲術令」によって、同年11月、萩(長州)藩は郡司鑄造所を藩営の大砲鑄造所に指定し、多くの青銅製大砲を鑄造しました。ここで鑄造された大砲は、江戸湾防備のため三浦半島に設けられた萩(長州)藩の陣屋に運ばれ、また1863(文久3)年、下関海峡での外国船砲撃、1864(元治元)年、同海峡での英・仏・蘭・米連合艦隊との戦争(下関戦争)にも使用されました。郡司鑄造所は在来技術である「こしき炉」によって西洋式大砲を鑄造しており、近代技術へと移行する過渡期を物語る産業遺産として貴重なものです。

◆松下村塾の北側隣り

##### 8 旧萩藩校明倫館(国史跡)

萩の中心部にあり、藩によって科学技術や教育振興が行われていた、全国有数の規模を誇る藩校でした。当時の「有備館」(劍槍術稽古場、坂本竜馬も試合をしたといわれている)や南門、また、全国で現存する唯一の水中騎馬練習場の「水練池」などがあります。

##### 9 旧萩藩御船倉(国史跡)

廻船業や漁業などで栄えた「浜崎地区」にある藩主の御座船を格納した場所です。萩城築城後、まもなくして建てられました。両側と奥に玄武岩で壁を築き、上部に瓦屋根を葺き、前面は木製扉です。近代化以前における最大級の船の大きさが窺えます。周辺は国の重要伝統的建造物群保存地区になっており、江戸時代から昭和初期に建てられた建物が多く残っています。

##### 10 旧湯川家屋敷(市史跡)

江戸時代中期に造られた人工の用水路「藍場川」の最上流にある武家屋敷です。主屋や屋敷のほかに、川の水を利用した台所や風呂場、庭園なども見所です。

◆萩市大字川島67 観覧料100円、P有り(無料、普通のみ)

##### 11 伊藤博文旧宅・別邸(国・市史跡)

伊藤博文は松下村塾で学び、幕末に西洋の知識を身に付けようと国禁を破って英国へ密航留学した萩(長州)藩の5人の若者「長州ファイブ」の一人です。その後、明治政府では上野卿に就任し、殖産興業政策を推進して工業国家・日本の礎を築き、のちに初代内閣総理大臣となりました。旧宅は茅葺き平屋建てで、隣接地には東京にあった広大な別邸の一部が移築されています。

◆萩市大字椿東1511-1 観覧料100円 P有り(無料、普通のみ)

#### 萩市地図



**萩地域**

**福栄地域**

**川上地域**

表紙/2010年 萩の近代化産業遺産産出事業 最優秀賞「萩反射炉」 小枝はづき(萩西中学校3年)

■観光のお問い合わせ  
**萩市観光課** Tel 0838-25-3139 (平日のみ)  
**萩市観光協会** Tel 0838-25-1750  
**NPO萩観光ガイド協会** Tel 0838-25-3527  
**萩温泉旅館協同組合** Tel 0838-22-7599

■発行  
**萩市総合政策部 世界遺産登録推進課**  
 〒758-8555 山口県萩市江南510  
 Tel 0838-25-3380 Fax 0838-26-3803  
 萩市HP <http://www.city.hagi.lg.jp/>



# 平成27年世界遺産登録へ



明治日本の産業革命遺産  
九州・山口と関連地域

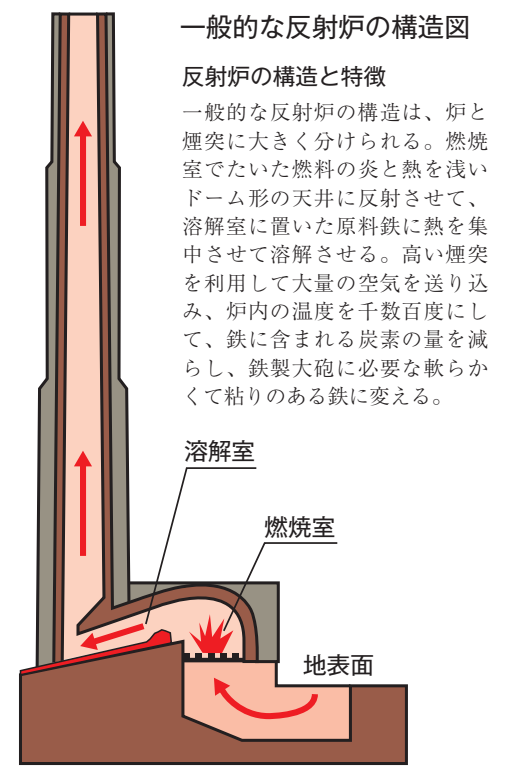
#### 世界遺産候補の資産

##### 1 萩反射炉

反射炉は鉄製大砲の鑄造に必要な金属溶解炉で、萩藩の海防強化の一環として導入が試みられました。萩(長州)藩は、反射炉の操業に成功していた佐賀藩に大工棟梁を派遣し、反射炉をスケッチして持ち帰ります。現在残っている遺構は衝突にあたる部分で、高さ10.5mの安山岩積み(上方一部レンガ積み)です。オランダの原書によると、反射炉の高さは16mですから約7割程度の規模しかありません。また、萩(長州)藩の記録で確認できるのは、1856(安政3)年の一時期に試みに反射炉が操業されたということだけであることから、萩反射炉はこのスケッチをもとに試作的に築造されたと考えられています。

現存するのは釜山(静岡県)と萩の2か所だけで、我が国の産業技術史上大変貴重な遺跡です。

◆萩市大字椿東4897-7ほか 萩市内中心部から北東へ約5km P有り(無料)

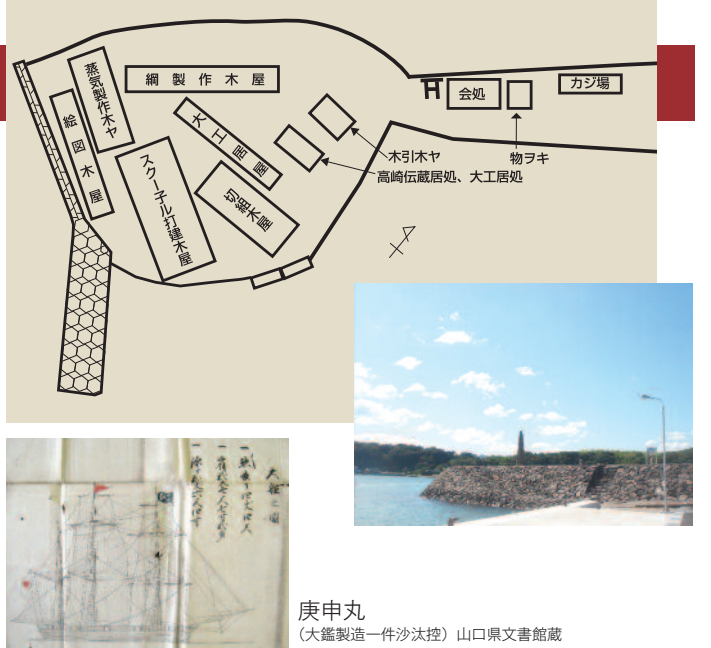


##### 2 恵美須ヶ鼻造船所跡

1853(嘉永6)年、幕府は各藩の軍備・海防力の強化を目的に大船建造を解禁し、のちに萩藩に対しても大船の建造を要請しました。1856(安政3)年、萩(長州)藩は洋式造船技術と運転技術習得のため、幕府が西洋式帆船の君沢型(スクナー船)を製造した伊豆戸田村に船大工棟梁の尾崎小右衛門を派遣します。尾崎は戸田村でスクナー船建造にあたった高崎伝蔵らとともに萩に帰り、近海を視察、小畑浦の恵美須ヶ鼻に軍艦製造所を建設することを決定しました。同年12月には萩(長州)藩最初の洋式軍艦「丙辰丸」(全長25m、排水量47t、スクナー船)が、また1860(万延元)年には2隻目の洋式軍艦「庚申丸」(全長約43m)が進水します。丙辰丸建造には、大板山たたら製の鉄が使用されたことが確認されています。現在も当時の規模の大きな防波堤が残っています。

図面:造船所見取図(「丙辰丸製造沙汰控」(山口県文書館蔵)より作成。スコール打建木屋:船の組み立てを行う施設・ドック  
 鉄製製作木ヤ:鉄製の羽釜で沸かした蒸気で船材を曲げるための施設  
 船回木屋:原寸大の図面を起こすところ  
 切組木屋:製材した部材を組み立てる作業場  
 綱製作木屋:船のロープを作る施設)

◆萩市大字椿東5159-14ほか 萩反射炉から海側へ約0.7km 大型車通行不可

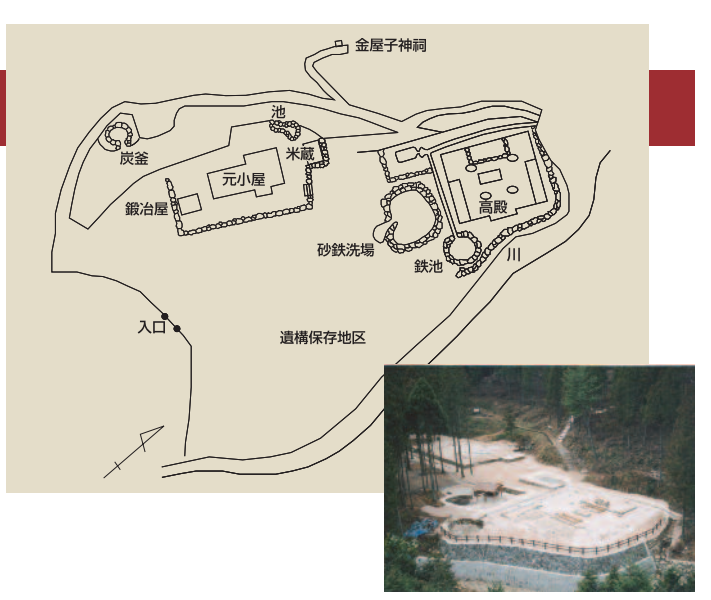


##### 3 大板山たたら製鉄遺跡

砂鉄を原料に、木炭を燃焼させて鉄を作っていた江戸時代の製鉄所の跡です。日本の伝統的な製鉄方法は、鉄の原料である砂鉄と燃料の木炭を炉に入れ糊を用いて行います。この時に使う炉を「たたら」と言います。宝暦期(1751~1764年)の8年間、文化・文政期(1812~1822年)、幕末期(1855~1867年)の3回操業していました。原料の砂鉄は島根県から北前船を利用して奈古港に荷揚げされ、荷駄で運ばれていました。建物跡などの遺構が露出した形で整備されています。

図面:保存整備図(高殿:中心施設で製鉄炉と支持構があった砂鉄洗場、製鉄炉、砂鉄を水洗いして不純物を取り除く製鉄場、製鉄炉でつくられた熱い鉄の塊を水で冷やす鉄水壺:事務所の機能を持つ施設  
 注意:製鉄作業で使われる道具を作ったり修理する)

◆萩市大字紫福257-5ほか(山のダム北側) 萩市内中心部から北東へ約23km 狭隘な道のため中・大型車通行不可 P有り(無料、普通のみ)



Site of Japan's Meiji Industrial Revolution: Kyushu-Yamaguchi and Related Areas Industrial Heritage Sites in Hagi

